

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題 ※評価対象についての1年間の具体的な達成状況について分析し、次年度に改善すべきこと、重点を置いて実施すべきこと等を総合的に判断して記述する。	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、85%以上である。	・生徒会や各分掌間で情報共有をしながら普段の学校生活をはじめ、学校行事や集会等、生徒の活躍のチャンスができるだけ多く設け、充実した学校生活となるよう支援していく。	A	B	B	・自分の学校が好きだと感じている生徒の肯定的な評価は82.7%である。次年度はさらに、学校行事や集会等、生徒会や分掌で情報共有しながら生徒の活躍のチャンスができるだけ多く設けられるよう工夫していく必要がある。	・専門教科の特色を生かし、生徒の自主性を大切に活動の場を設定して支援されていて、その内容も充実していると思います。 ・地元企業と連携しており、特色ある学校づくりに努めています。 ・文化祭（翔光祭）については、一般の方が参加し、生徒の活動や家庭と違った姿を見ることができるといいと思います。また、生徒の成長にもつながる場だと思います。
		② 専門教科の特色を生かした教育活動（課題研究等）に、生徒の85%以上が満足している。	・生徒が活躍できる場を提供することによって、生徒自らが積極的、主体的に専門的な学習に取り組める環境を整える。	A	A	A	・専門教科の特色を生かした教育活動に満足している生徒の肯定的な評価は91.7%である。地域の方々にも積極的に協力していただけた。次年度も課題研究や実習のなかで地域連携をとって専門教科の特色を生かした教育活動を継続していく。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③ 授業について、生徒の80%以上が「分かる授業」と感じている。	・授業における協働学習やICTを活用した授業の実施により、授業改善を図る。	A	A	A	・全体のアンケート結果では、生徒の89.1%が、肯定的な評価をしているが、年2回の授業アンケート結果では、もう少し低い評価となっている。授業アンケート結果を参考に、さらなる授業における協働学習やICTを活用した授業改善を図る。	・学習形態の変化により、教えるから自ら学ぶ学習への支援というところでの授業改善は、学校現場共通の課題かと思っています。その中での個別支援や援助体制を工夫していくことが大切だと思います。 ・各教員の分かる授業の工夫が感じられます。 ・1月に現場ARでの施工モデルの可視化やVRを利用した事故体験などとした建築科2年の生徒たちの、熱心に説明を聞き体験する様子に、協力していただいた企業の方も感心していました。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	④ 自己の目標に対して、確かな学力を身に付けていると感じている生徒が80%以上である。	・進路実現を達成するために必要とされる学習内容を明確にし、支援することによって学習意欲の向上を図る。	B	A	B	・アンケート結果では、生徒の86.3%が肯定的な評価をしているが、教職員は、63.8%しか肯定的な評価をしていない。授業での小テストを増やしたり、必要に応じて補習をしたり、特に、英語・国語・数学については、年2回の到達度テストを実施しているの、スタディサプリでの事前指導・事後指導を徹底する。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑤ 全ての生徒が、学校生活に対して挨拶やマナーを守っていると感じている生徒が85%以上である。	・生徒会役員を中心にマナー・モラルについて考え、行動する機会を設ける。原則的には励まし、認める指導を心掛け、生徒の自己指導能力の育成を図る。	B	A	B	・学校生活に対して、挨拶やマナーを守っていると肯定的に回答した生徒・保護者が81.3%であった。次年度も学校行事等において、マナー・モラルについて生徒自ら考える場面を設けていく。	・生徒が安心・安全に生活する上での危機管理や安全指導、心のケアについては、いろいろな機関と連携して体制づくりをされていると思います。意識の高揚と継続した指導を引き続きお願いします。 ・生徒の礼儀作法もよく身につけていると思います。
		⑥ スクールカウンセラー等を活用し、生徒への早期対応を図り、学校不応者者をなくす。	・スクールカウンセラーの活用を促したり、アンケートを実施することにより、現状を把握し、職員間の共通認識と協力体制のもと、早期対応を図る。	A	-	A	・スクールカウンセラーや特別支援コーディネーター、専門アドバイザーとの協力体制が整い、具体的な支援・指導方法を提示することができている。今後も職員の連携を密にして、組織的に対応していく。	
		⑦ 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていると感じている生徒が80%以上である。	・職員研修会を実施し、全職員のいじめに対する認識を高める。 ・職員間で生徒情報を共有し、職員がいじめの兆候を見逃さず、把握した際は組織的な対応を図る。	A	A	A	・職員間の情報共有を密に行い、問題の早期発見に生かすことができた。生徒全員が安心して学校生活を送れるように、職員の研修も行っていく。	
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧ 不規則な生活による遅刻者が、前年比80%以下である。	・生徒に朝学習の意義を深めさせ、5分前登校の一層の推進を図る。 ・遅刻の増加、欠席の兆候が見られた時点で対応を図る。 ・保護者との連絡・連携を密にし、保護者の理解と協力を得る。	B	B	B	・食事や睡眠時間をしっかりととり、ゆとりをもった登校ができていると回答した生徒・保護者が、83.9%であった。規則正しい生活が送れるように、5分前登校の一層の推進を図り、保護者との連携を密にして、協力体制を整えていく。	
	6 生徒の安全について配慮した指導を行っていますか。	⑨ 交通事故等の未然防止について90%以上の生徒が意識を持っている。	・日頃の交通安全指導や交通安全教室の充実を図り、生徒の交通安全に関する意識を高める。 ・交通マナーに関する問題提起を生徒にも呼びかけ、生徒自身が事故防止を考える機会を増やす。 ・自転車でのヘルメット着用啓発活動を行い、ヘルメット着用率を上げる。	A	A	A	・交通ルールを守り、他人に迷惑をかけない登下校ができていると回答した生徒・保護者が96.6%であった。ただ、交通事故は無くなっていないため、ヘルメットの着用啓発活動を高め、交通ルールの遵守や交通マナーの徹底が図れるように、今後も指導を継続していく。	
		⑩ 環境面・健康面で生徒の安心安全を確保するために、適切な対応方法を理解している生徒が80%以上である。	・職員に危機管理や感染症対策について周知し、教育環境の整備や保健衛生指導の充実を図る。 ・生徒主体の防災訓練やセミナー等を実施し、生徒の防災や健康管理に対する意識を高める。	B	A	A	・92.5%の生徒が理解できていると答えている。引き続き感染症予防や熱中症予防、災害時のスムーズな避難などについて、研修会や委員会活動などを通して一層の啓発を図る。	

IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 生徒が自己の特性を認識し、それを積極的に生かす指導を行っていますか。	⑪ 進路実現に向けて資格取得や技能習得に積極的に取り組んでいる生徒の割合が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>科を中心として課外・補習等の指導体制を整え、学年団や進路指導部とも連携して上級資格の取得を目指す。</li> <li>進路ニュースや進路の手引を活用し、各学年に応じた進路ガイダンスを実施する。</li> <li>3学年全員の面談を行い、生徒の特性に合った進学や企業選択を支援していく。</li> </ul>	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>89.4%の生徒が肯定的に答えたが、目標の90%に達しなかった。検定対策学習だけでなく、資格試験の重要性と必要性および社会的な役割になどについて説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用は、情報発信には大変有効と なってきていると感じる。全体や保護者への情報共有という面では進んできていると思います。その中で多様化する進路選択や社会情勢への個々の対応が大切なのかと思うと同時に、大変かと思えます。</li> <li>進路については、本人とよく相談できていると感じてある。</li> </ul>
	8 適切な進路決定を行えるよう、保護者の協力を得ていますか。	⑫ 進路実現について、85%以上の生徒や保護者が進路情報を理解し、関心を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部と学年団の連携を密にし、学年会で、進路指導や情報等を検討し、各担任が保護者面談に活用できるようにする。</li> <li>3学年保護者会では、進路ニュースや進路の手引などを活用し進路情報を提供する。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度から求人票等のデータをICTで見られるようにしたこともあり、88.9%の生徒と86.1%の保護者が肯定的に答えた。今後もICTを活用した進路情報の発信を推進していく。</li> </ul>	
	9 進路実現を積極的に行うことができるよう、校内での組織的な取り組みを行っていますか。	⑬ 進路実現に向け、面接や小論文などに、3学年の80%以上の生徒が主体的に意欲を持って取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師による進路ガイダンスや職業講話を実施し、生徒の進路実現の意欲向上を図る。</li> <li>就業体験・先輩からの進路報告会等をととして、職業観の育成や進路実現に向けて努力の重要性と自分自身の課題を自覚させる。</li> <li>3学年においては、長期休業中を利用し、コミュニケーション能力や文書作成能力向上のために、面接練習や小論文対策を実施する。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>75.2%の生徒が肯定的に答えた。進路への取組を後回しにしている生徒が一部見受けられるので、1年生から進路ガイダンスに参加させ、3学年においては、面接練習や作文（小論文や志望理由書）対策支援を強化する必要がある。</li> </ul>	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に対して、学校教育活動を積極的に発信していますか。	⑭ 本校の教育活動について、保護者の80%以上が関心を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育活動や成果の情報発信を強化するため、Webページの充実を図る。また迅速な更新ができるように、Webページの作成方法や構成を検討する。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおむね好意的な評価は得られたが、今後は動画等の発信を目指し、より分かりやすく印象的な情報発信をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各専門学科での企業や地域と連携した取り組みは素晴らしいと思います。中学校の生徒にもその一端でも見学させたいくらいです。PTA活動については、中学校でも課題となっています。働き方改革も言われる中で、行事精選の中でどう連携を深められるか探っています。</li> <li>学校だによりにより、地域の理解が深まっている。</li> </ul>
		⑮ PTA総会や学年保護者会等に、積極的に参加している保護者が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA行事への保護者参加について案内や説明を行うとともに、支部組織を活用して、積極的な参加を呼びかける。</li> </ul>	B	-	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA役員や保護者は協力的ではあるが、会員親交の行事（スポーツイベントや研修旅行）が、再開できていない。次年度は、近隣の学校とも連絡を密にして、PTA会員の親交を深めていく。</li> </ul>	
	11 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑯ 学校評議員制度を活用し、実施可能な提言を2つ以上取り入れ、学校運営改善に役立っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の重要課題を明確にし、評議員からの評価・要望を受け、改善に取り組む。</li> </ul>	B	-	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>県外に進学した生徒が地元に戻ってくるよう、在学中に地域連携、地域貢献を積極的に行い、地元の魅力を感じられるような取り組みを積極的に行っていきたい。また、ヘルメット着用や雨天時のバス停のマナーなど、自分の命を守ることや、相手に迷惑をかけない指導を継続して行っていく。</li> </ul>	
		⑰ 地域の社会人を講師とした講演会を年2回以上実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会を実施する前後に、専門教科において事前指導や事後指導を設け、継続的な授業になるよう実施する。</li> </ul>	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築科：10月に「建築設計製図に活かすパース着色」を実施。3月に「建築業界研究セミナー」を実施。今後も継続していく。</li> </ul>	
12 地域の学校や企業等と連携していますか。	⑱ 地域住民や地元企業等と連携した活動を年3回以上実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究等を通じ、地域のイベント等に参加することで交流を図る。また、地元企業とも連携を図り、多くの教育機会を創出する。</li> <li>ボランティア活動へ積極的に参加し、地域との交流を深める。</li> </ul>	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業科：9月に1年生がインターンシップを実施、11月に安全体感体験教室、明和町と地元企業2社による安全教育を実施。建築科では、課題研究で「協働のまちづくり事業」を実施し、明和町ふれあいパークに設置のベンチを製作し9月に納入。</li> <li>商業科：課題研究で、「シクラメンや梨、百年小麦のPR」「正田醤油とのコラボ商品の開発」「明和町議会モニター（2年目）」「茂林寺沼の活性化」等を積極的に展開。県と包括連携協定を結ぶ「とりせん」と共同商品開発（2年目）で、12月に惣菜を販売。来年度も継続して交流を深めていきたい。</li> </ul>		
	⑲ 地域の幼稚園・小中学校・大学と連携した教育活動を年2回以上実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教育機関と連携を図り、社会人として必要な幅広い教養を身に付ける。また、専門高校の良さをPRする。</li> </ul>	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産システム部：8月に部員の製作物（誰でも弾けるピアノ）をこども園に持参し、情操教育を実施。</li> <li>商業科：課題研究において、地元保育園と一緒に農場実習を行った。</li> <li>ビジネス研究部：文化祭（翔光祭）にて部員が運営する中学生フープロ競技大会を開催、近隣9校から22名が参加。来年度も継続して交流の機会を深めていきたい。</li> </ul>		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ 生徒の80%以上が「ICTを用いた授業が行われている」と回答している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業にICTを活用することで、分かりやすく、生徒が興味関心をもてるよう授業改善を図る。</li> </ul>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体のアンケート結果では、生徒の91.9%が肯定的な評価をしているが、年2回の授業アンケートでは、もう少し低い評価をしている。職員研修等を通して、全職員が積極的にICTを活用することで、分かりやすく、興味関心をもてるような授業改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善の一環として、とても有効だと思います。会議のペーパーレス化や出張をオンライン化等、随時変わりつつあります。</li> <li>今後も積極的にDX化を推進してほしい。</li> </ul>
	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑ 働き方改革に伴う、業務の効率化を図り、職員会議及び職員朝会のペーパーレス化を75%以上実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の性質上、ペーパーレスが可能なものについては積極的に実施していく。また必要に応じてパスワード設定等のセキュリティ対策も講じる。</li> </ul>	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議や朝会等、ペーパーレス化を進めてきた。次年度もペーパーレス化を推進していく。ICTを活用することで可能になる業務改善もさらに推進していく。</li> </ul>	